

第3回飯田市社会福祉審議会児童福祉分科会（飯田市版子ども・子育て会議）

第3回飯田市次世代育成支援対策地域協議会 議事録

日時 令和6年9月26日（木）14:00～16:30

会場 飯田文化会館 展示室1

出席者（委員）：原委員、鎌倉委員、秋山委員、松村委員、池田委員、塩澤委員、渋谷委員、黒河内委員、小林委員、岡田委員、西村委員、村松委員、湯本委員、藤本委員、今牧委員

（事務局）：筒井こども課長、小澤保育家庭課長、宮嶋保健課長、高山こども課長補佐兼子育て支援係長、片桐こども課長補佐兼こども相談係長、北沢こども課発達支援係長、牛山保育家庭課長補佐兼施設管理係長、齊藤保育家庭課保育係長、飯島保育家庭課家庭相談係長、矢澤保健課長補佐兼保健指導係長、福澤保健課長補佐母子保健係長、木下学校教育課児童クラブ係長、庭村福祉課長補佐兼障がい福祉係長

（司会）：高山こども課長補佐兼子育て支援係長

1 開 会

2 原会長あいさつ

2週間連続の連休があり、敬老の日ということで孫の保育園の敬老参観に行ったり、秋分の日では長姫神社のお祭りに行ったりし、孫と一緒に過ごした2週間でした。

ニュースでも報道されていますが、10月から児童手当が改正され、所得制限の撤廃や第3子以降は3万円になるということ、高校生までが支給対象になるということが加わり、子育て支援に対する予算がついていることを感じます。4人こどもがいると毎月8万円手当が出るということであり、世の中の変化を感じますが、子育てが終わった人たちは今の子育て支援の状況をほとんど知らないと思います。政府も市役所ももう少し広報を行い、子育てをしている人ではない人にも理解していただくために、職場などでも話題にしてもらい、子育て支援に対する関心が高まっていくようにしていただきたいと思います。10月から大幅に手当の制度が変わるということで、感じたことを述べさせていただきました。

3 こども課長あいさつ

本来でありましたら、こども未来健康部長の山崎がご挨拶をさせていただくところですが、外せない業務がございまして本日は欠席させていただきます。ご了承ください。

本日の会議ですが報告事項として、まず昨年度策定しました「いいだ障がい福祉プラン」について、福祉課の担当より説明をさせていただきます。続いて仮称「飯田市こどもまんなかプラン」の策定を進めていくにあたり、こどもまんなか社会の実現に向けてこども・若者の意見を幅広く聞くことが求められており、小中学生、若者からアンケート調査を予定しております。その内容等につきまして事務局から説明をさせていただきます。最後に協議事項として、「飯田市こどもまんなかプラン」の基本目標と施策の方向、今年度策定しております飯田市の総合計画「いいだ未来デザイン 2028 後期計画」との整合についても事務局から説明をさせていただきます。よりよい計画にしていきたいと思いますので、説明を聞いていただき様々な視点からご意見等を頂戴できればと思います。

4 報告事項

(1) 「いいだ障がい福祉プラン 2024」について

(庭村福祉課長補佐兼障がい福祉係長より資料 No. 1 の説明)

意見質問事項

A 委員	「障がい福祉プラン」は、自分とは関係ないと思われてしまうとよくないと感じます。障がいの方だけでなく、その周りにいる全市民がこのプランを承知し、障がいのある方と一緒に生活することが重要ではないかと思います。
事務局	「障がい福祉プラン」の中には、広報についても書いてありますので、市民全体の意識の醸成を図ることが大事だと捉えております。事務局でも引き取って持ち帰りたいと思います。

(2) 「飯田市子ども・若者の意識と生活に関する調査」の実施について

(高山子ども課長補佐兼子育て支援係長より資料 No. 2 の説明)

意見質問事項

B 委員	調査方法の(3)について、郵送で自宅へ送り、受け取った若者が「やりたくない」と思う人がかなりの数いるのではないかと心配しております。可能であれば、高校生は高校で回答できるようにするのではないのでしょうか。この調査のみ、回答率がかなり低く出てしまうのではないかと思います。
事務局	回答率はどうしても下がってしまうことは想定しています。昨年度、郵送による子育てニーズ調査を実施し、2000名を対象にし、700名程の回答がありました。今回は4800名を対象とし母数を増やしています。飯田市内の小学4年生から中学3年生およそ5000名とその保護者については、教育委員会にご協力いただき全員回答していただくことができるため、それぞれ約5000名の回答を得ることができます。高校の協力をいただくということについてですが、高校に通う飯田市の子どものみを抽出することが難しく、今回はこういった形で試行してみるということになります。回答率を見て、今後考えていきたいと思っています。
C 委員	この調査については趣旨を含め、広報をよくしていただくといいかと思いました。
事務局	できるだけ努めてまいりたいと思います。(3)の調査の中には小中学生の保護者も含まれている場合がありますので、調査が被って届いてしまう方もいます。そういった場合は(3)を優先して回答していただけるように依頼文の中には書かれております。(3)の調査の回答率が少しでも上がるように私たちとしても配慮してまいりたいと思います。

5 協議事項

(1) 基本目標と施策の方向について

(高山子ども課長補佐兼子育て支援係長より資料 No. 3 の説明)

意見質問事項

D 委員	子ども・子育てを尊ぶ地域環境づくりが1番大切だと思います。子育て当事者は分
------	---------------------------------------

	<p>かっていますが、子育てが終わると関心がない方がたくさんいらっしゃるよう感じます。会社には子育てをしながら働いている方が多くいます。その人たちの子育てを会社としてフォローしていかないと、やめてしまったり労働力の減少につながったりしてしまいます。子育て支援は会社にとっても重要なことだと私は思っています。子ども・子育ての大切さをプランの中に入れて広報していただき、当事者だけでなく、地域全体で皆さんが関心をもっていただけるようにして欲しいです。ぜひ子ども・子育てを尊ぶ地域環境づくりを進めてほしいと感じました。</p>
事務局	<p>特に情報戦略の弱さがあると思います。あらゆる世代に子どもや子育てがおかれている状況を分かってもらうことと、諸先輩の皆さんが子ども・子育ては幸福なことだということを、次世代に伝えてもらうことも大事だと感じております。</p>
E 委員	<p>基本目標3のねらいに、「子どもにとって家庭は最初の学校となるよう親も一緒に育ち」とありますが、この文言はとても大事だと感じます。大事な宝である子どもをまず育てるのは親であり、地域の部分でもあると実感し、意識を持つことが大切だと思いました。</p> <p>もう1点は、11ページに「担当・関係課等」とありますが、これだけの関係機関が同じ方向性をもって関わっていかなければできることではないという部分において、関係機関との情報共有や横のつながりをもっていないと、取組の達成ができないのではないかと思います。まずは飯田市の関係機関がもち、地域がもち、それぞれの市民がもつというようにしていけると、ここにあります目標や取組がよりイメージしやすくなるのではないかと思います。</p>
事務局	<p>全市をあげての取組ですので、全庁統一の計画として進めてまいりたいと思います。今までのプランでも「子育ては親育ち」といったようにしていますが、今回はさらに拡大していきまして、子どもが育つことが親になっていくという段階まで広げたプラン作成を進めてまいりたいと思います。</p>
F 委員	<p>4ページの体系図で理解が進むように感じました。「子ども・若者のライフステージに応じた切れ目ない支援」ということで、切れ目のないというところが循環しているということが大事な部分だと思いました。切れ目のない支援は、支援を受ける側も切れ目なく受けるということですが、支援をする側が行政だけでなく地域住民など、周りの人たちすべてが切れ目のない支援をしていく側だという意味もここには含まれていると感じます。支援を受ける側もする側も途切れることなくということが大切だと思いました。</p> <p>若者まんなかの視点という点で、学校を卒業して就職すると、親も周りも一人前という気持ちになると思いますが、「いくつになっても周りに頼ってもいい」ということを伝えてあげることが大事だと思います。</p>
事務局	<p>支援を受ける側の話をしみますと、今まで若者をまんなかに据えた視点というのは行政でもなかったと思います。若者が住み、暮らすことについてあるいは将来の夢を描くことについて優しいまちであるために、これから考えていくことになろう</p>

	<p>かと思えます。なかなか事業化することは難しい分野だと思えますが、こういった立場の人たちが、声を出し合えるような場をつくるのが1つの自己実現の道になるのかと思えます。社会に出て言葉を発することが困難な若者の皆さんにも、その機会が得られるように注力してまいりたいと思えます。支援する側の多様な主体が途切れることなくあっておくべきだというご発言については、大事な御指摘だと思えますので持ち帰ってまいりたいと思えます。</p>
G 委員	<p>途切れのない相談支援の体制についてですが、妊娠から出産までに助産師に出会い、出産して2ヶ月の訪問で保健師とも出会います。その後地域につながっていきますが、助産師も産後に関わってもらえるような体制や出産後も少しずつ重なっている関係があるといいと思っています。出産するまでの初期、中期の段階では個人の産婦人科に行っており、産むときは市立病院ということもあるため、心配な母子についてはその段階でもつながっていけるようにしていただきたいです。2ヶ月訪問に保健師が行っており、心配なご家庭や、心配が強い親御さんがいた場合、地域につなげていく役割も含めて助産師が同行することはできないのかと感じます。全家庭にはできないことは承知ですが、少しずつつながりながら行っていくことも1つの方法かと思えます。今後整備されていくこども家庭センターの中には、コーディネーターとして助産師も配置され、妊婦や産後の親子にしっかり目が行き届くようなつながりのある相談支援体制をとっていただけたらいいと思いました。</p>
事務局	<p>妊娠期から母子保健コーディネーターが母子手帳交付から関わっており、産科や助産院の助産師が情報交換しながら関わり、産婦健診での産婦の状況を保健課に連絡いただき、必要な方については早めに地区の保健師と連携体制をとりながら支援を行っています。現在毎日ではないですが、母子保健コーディネーターの中に助産師も入っていただいている状況もありますので、情報交換をしっかり行いながらいただいた意見について考えていきたいと思えます。</p>
H 委員	<p>体系図を見て様々な支援があるということですが、定住して子育てをしていく中で、なかなかそれが認知されないということもあるのではないかと思います。他市町村と比べて「飯田市はやっぱりここがあるから、子育てしやすい」というようなインパクトや政策の強弱は難しいと思えますが、様々な市町村で抱えている課題は近く、やることも大体似たようなことになってきてしまう中で、少し差別化を図ったり独自性があるようなことができたりすると、認知も広がっていくのではないかと思います。</p>
事務局	<p>特に飯田市では、保育分野で自然保育ということで自然体験や環境そのものを飯田の強みとして、「ここで子育てしてみませんか」と情報発信をしています。親御さんから市に対してのご要望を頂戴する中では、大きな屋内型遊技場など親子遊びの場所がほしいといった声も出てきていますので、こういった遊び場で親子で楽しいひと時を過ごしたいという方もいれば、自然保育や自然体験への魅力を感じてくださる方もおり、両方に飯田市のオリジナリティを展開していきたいと考</p>

	えていますので、皆さんとしっかりご議論してまいりたいと思います。
I 委員	事務局からご説明いただいた不十分なところや助産師のつなぎのところについてお聞きすると、まだ課題はありますし、とても大事であろうことだと思います。何年か見てきた中で、乳幼児に対する経済的な支援については、国でも飯田市でも手厚く支援があり進んできていると思います。しかし、会議でも話題になっていますように若者の意識としては、大人になって結婚や出産、家庭を持つことに対して自信がなく、不安であると感じる方がとても多いと思います。保育園では、こどもたちの成長を喜びながら保護者も我が子と一緒に育っていき、こどもたちの幸せな未来を願っています。その後こどもたちが家庭を持ったり社会の中で活躍したりすることに、なぜ自信や自己肯定感を持たないのだろうかと感じます。今回意識調査をやるということで、こういったことも途切れのない支援としてつながっていくといいかと思いました。
D 委員	とにかく人口が減っていることから労働力が減っており、就職難がないのが現状であったり、学費がかからなかったりなど、若者が自信をなくす必要は全くないと思います。これから先が不安だと感じている若者に対し、こういった情報をしっかり発信し、伝えていくことも大事だと感じます。
I 委員	結婚や子育てをしたいと思う若者が増えていかない理由として、経済的なものばかりではないということを感じますので、そういったことも含めて政策につなげていけるといいかと思いました。
事務局	今回の意識調査で浮き彫りにすることが困難な分野だと思いますが、子育てをすることに心理的な不安感や精神的な困難さがあったり、若者の中には精神的な不安感を抱えている方もいたりします。保健課では、自殺予防対策の取組として調べているところではありますが、数字として表れにくい分野でもあります。ご意見いただきましたように情報戦略をしっかりと行い、若者自身が自信と未来への夢を取り戻すような気軽に集える窓口が必要になってくるのではないかと検討していかねばならないと思いました。市役所ばかりでなく、就労相談などを行う団体もあります。こういった就労サポートを行ったり、若者サポートを行ったりする団体を周知することで、相談窓口ができたり日の当たるようになっていったりしていくのではないかと、できるところから取組んでまいりたいと思います。
D 委員	プランの名称としては、「若者」は入れた方がいいと思います。範囲が広がり、今までのこどもだけのプランではないということで、議論にもあったような若者が結婚したり子育てしたりできるようにするところまでのプランだということを強調した方がいいと思います。
E 委員	「計画」よりも「プラン」の方が、響きが柔らかくていいと思いました。
J 委員	これから次世代を担っていく方たちが、自分でこどもたちや高齢者について考えていていただきたいと思いますので、名称に「若者」が入っているといいかと思いました。
事務局	ありがとうございました。委員の皆さんのご意向が分かりましたのでしっかり尊

重しつつ、持ち帰りたいと思います。

6 その他

7 次回開催予定

日時：令和6年10月中下旬の予定

8 閉会